

ひやまの 北海道遺産



北海道遺産とは、北海道が有する有形・無形の財産の中から、次世代への継承を目指し、同時に、地域の中での活用などを目的につくられたもの。令和5年3月現在、全道で74件が選定されており、檜山の歴史・文化に関するものは5件あります。

- 今金・美利河の金山遺跡
- 上ノ国の中世の館
- 江差追分
- 五稜郭と箱館戦争の遺構
- 姥神大神宮渡御祭 ▶ 3ページに詳細掲載

北海道遺産

びりか 今金・美利河の金山遺跡

●江戸時代前期～昭和期(今金町)

—— 最新! 2022年10月の第4回で選定 ——



美利河砂金採掘跡



カニカン岳金山跡鉱山白



昭和期の砂金掘り用具一式

今金町・美利河(びりか)の金山遺跡の歴史は、古くは江戸時代前期(1630年代～1660年代)にさかのぼる。松前藩は蝦夷地の金山開発を奨励し、この後志利別川上流域にも砂金採掘の痕跡が数多く残されている。当時の掘り方は水気のない台地上に水路を引き、土砂を根こそぎ洗い流すという大掛かりなもので、これが流域沿いに10km以上点在する様子は、大ゴールドラッシュの発生を物語る。その後、明治20年代にも再興し、ここで腕を磨いた者が道内各地の金山で活躍したという。本地域は砂金掘りの技術を磨く場として歴史上重要な位置を占めた。砂金採掘はその後昭和30年代まで続き、当時の採掘用具も残されている。

学芸員が教える注目ポイント

後志利別川はアイヌ語に由来し、「縄川」や「蛇川」と、曲がりくねる河川の特徴が表されています。固い岩盤に遮られ、大きく流路を変える部分には土砂がたまりやすく、砂金を採取するには最適な地形とされています。特に美利河ダム周辺は複数の支流の合流部に当たり、江戸前期以来、砂金採掘が最も盛んな中心地でした。ここは採掘跡も良く残っていますので、誰でも見学できるよう現在環境整備を進めています。

●今金町教育委員会 / 宮本 雅通



上空から撮影した勝山館跡



勝山館の庭と客殿跡



発掘調査中の勝山館跡



勝山館跡復元模型



見つかったアイヌ人の墓

北海道遺産

上ノ国の中世の館 勝山館跡

●15世紀後半(上ノ国町)

夷王山の東麓にある、日本海北方交易や中世の生活様式など「北の中世」を語る重要な史跡。松前氏の祖・武田信廣が15世紀後半に築き、その後約1世紀に渡って、武田・蠣崎氏の政治・交易・軍事の一大拠点となった。現在、館跡では柵や橋、空壕などの立体復元などが進み、当時の生活や館の構造を身近にしながら散策ができる。また、ガイダンス施設では勝山館跡の200分の1の模型をガラス越しに現地と重ねて観察できるほか、発掘結果をもとに、CGで復元した勝山館のリアルな姿を見ることが出来る。

学芸員が教える注目ポイント

館跡から当時アイヌの人々が使っていた骨角器が多数出土し、このことからこの地に和人とアイヌ人が混住していたことがわかりました。両者の墓が隣り合う形で発掘されたことも大きな裏付けで、関係性は良好だったのでは、と考えられます。異なる文化を持った和人とアイヌ人が同じ山城にいた事実は大きな発見で、非常に珍しいものと言えます。

●上ノ国町教育委員会 / 塚田直哉

